

米軍再編見直し

政府、沖縄に説明

補佐官派遣

政府は6日、沖縄県に駐留する米海兵隊のグアム移転を米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）移設と切り離して先行させることで米側と大筋合意したことを受け、長島昭久首相補佐官を同県に派遣し、県側に具体的な説明を始めた。

長島氏は8日まで沖縄県に滞在し、県幹部らに在日米軍再編計画の見直し内容を説明する予定だ。

海兵隊部隊の一部が早期に国外に移転することは、地元の負担軽減につながると強調することで、普天間飛行場の同県名護市辺野古

への移設について地元の理解を得たい考えだ。沖縄県側の反応を探り、野田首相の沖縄訪問につなげる狙いもある。一方、名護市の稻嶺進市長は6日、同市辺野古への普天間移設を断念するよう米政府に訴えるため訪米した。△関連記事1面▽